

三月一日、範頼の部將渋谷重國の使が、鎌倉に到着し、範頼の軍が豊後に渡ったことを報じた。

同月、長門壇ノ浦で平氏を破った範頼は、平家滅亡後も引き続いた戦後処理にあたり、同七月帰洛した。範頼に帰洛を命じた頼朝は、同時に中原久経・近藤国平を、鎮西の武士たちの狼籍鎮圧や莊園年貢に関する問題の解決に当たるために派遣した(芥川龍男「二豊における幕府体制の成立」)。

十月頃、朝廷では、さしあたって白杵・緒方らを配流に処したが、同日非常の赦しを与えた。

源義経は、後白河上皇が義経に与えた檢非違使・左衛門少尉・從五位下をめぐって、兄頼朝と対立するにいたり、十月十一日、義経が行家を協力して頼朝を討つべしとの院宣を強請したことにより、十八日、頼朝追討の宣旨が下されたが、この日、頼朝の命を受けた土佐房昌俊の襲撃をうけ、義経は、京に留まることに危険を感じ、法皇を奉じて、九州に逃れようとする。しかし、法皇は、ひそかに頼朝と連絡を取って、軍勢の上洛を促し、一方では義経を京都から追いだそうと画策する。義経は頼朝追討の宣旨をもとに兵を募るが、応ずる者少なく、やむなく単独で九州に下ることを決意し、十月二日、後白河院に対し、豊後武士らを院に召し、義経・行家らを特に支援する

よう命令してほしいと要求した。法皇は翌三日、義経を九州の地頭に、行家を四国の地頭に任じ、九州・四国の武士に両人の指揮に従うように命じた。

十一月五日夜、義経らは乗船した夜半から大風が吹き完全な船は一艘もなく、過半は海に沈んだ。義経・行家は小船一艘に乗り、和泉浦に逃げた。豊後武士らは、あるいは降参し、あるいは生け捕られた。

筑後国山門郡原町村太田吉蔵氏所蔵大神系図(東京大学史料編纂所影写本)によると、緒方惟栄については、「依九郎判官義経同心被配流、始波被預狩野郎、後被預于千葉助、則取婿上野国沼田莊云云」とある。大野泰基についても、「九郎判官義経同心、領知因被没収」とみえる。野尻次郎惟村も、「被流周防国遠崎、則給配所相伝直入三郎惟友子於為養子、今仁在之」とある。

直入三郎惟友については、「下総国南左馬藤心云所被配流云云」とみえる。この記事でまず気になるのは南左馬とはなにかということである。下総国……云所とあるのが地名と思われるもの、あるいは左馬は左馬助を略したのかもあるいはない。とすれば左馬の下に脱文があるのかもしれない。いなど、邪推してみたりもした。

ながめていこううちに、千葉県柏市の藤心という大字名が目にとまる。嘉祿三年(一二二七)十二月日の相馬

能胤議状写(岩松文書)に「御くりのうちのち、てか・ふせ・ふちこ、ろ・のけさき」とあり、また、弘安五年(一二八二)十一月十二日に、とち御前は新田莊内の所領とともに「さうまの御くりやのうちに、ふち心の郷」を娘藤原土用王御前に譲与している。(「角川日本地名大辞典」千葉県)これによって「左馬」は、「さうま(相馬)」だということが判明する。(史学科卒・非常勤講師)

二人の研究九生

後藤重巳

日本史研究室(後藤)に、今、二人の外国人研究生がいて、日本文化史の研究に励んでいる。ニューヨークのノーリン君と韓国の尹君の女性二人である。二人共、それぞれ自国で数年間、日本語を勉強したと云うだけあって、会話はかなり達者である。

しかし、英語圏から来たノーリン君は、漢字は苦手でもミーティングでのメモは専ら仮名と英語を用いている。一方、尹君はさすがに漢字圏育ちだけに、漢字そのものには強いが、それを会話や文章に生かすには苦労している。日本語は難しいらしい。ノーリン君は、来日歴数度と云うものの、やはり研究室で、日本文化について深く勉強してみると、新しい発見が多いらしい。尹君には、先週

のミーティングで、坪内逍遙の『小説神髓』、島崎藤村の『藤村詩集』の序などを通して、日本近代思潮の夜明けについて話をしたが、大変興味を示していた。二人は、閑な時間お、図書館で仲良く一緒に勉強しており、頼もしい限りである。

『国史纂集』の復刊を試みてから以降、今のところ順調に刊行が進んでいる。問題は、原稿の集まり具合である。今号には、八幡先生から貴重な体験談を頂いた。『国史纂集』も流行の表現をすれば、「国際化」と云うところ。これからは大変である。どしどし原稿を届けて下さい。鶴首して待つています。(後藤)

一太郎もヴァージョンアップして編集機能はかなり向上した。もつと早く出来上がる予定であったが以外と手間取った。多機能になった分だけ操作が微妙なところで複雑になり暴走してしまうこともしばしば。一太郎は確かに日本一ではあるがワープロの操作にもう少し習熟する必要を痛感した。(森)

『国史纂集』第十二号
一九九〇年一月十五日発行

編集 後藤 重巳
後藤 重巳
森 猛

発行者 後藤 重巳

発行所 別府大学日本史研究室
二八七四 別府市北石垣八一